



ダニーデン近くに停泊していた豪華客船



ラーナック城が見える

クルーが今度はお盆に何やら乗せてきて、「寒いでしょう、そろそろお腹も減りませんか？温かいお菓子です。」と差し出す。小さなパイで温めてある。ミートパイを頂くとすごく温かい。一口食べると中はアツアツ。

程なくダニーデンの街並みがみえてくる。目につくのは高い塔を持つ古い建物で大学や博物館、そして教会などだと思うが、どれが何やら見当がつかない。でもそういう建物を大事に使っているのは素晴らしい。ホテルに戻ったのは7時過ぎだった。

(11日目)

チョコレート工場の見学だ でも英語 12/14 晴れ



雲は少しあったが、お日様がまぶしい。今日は2時ころまでダニーデンの町を散策してオークランドに行く。



Cargill's Monument



公園越しに見える
ファースト教会



古い建物

最初に一昨日夜到着したダニーデン駅へ、古風な建物できれいな建物だ。内部もタイルやステンドグラスなど洒落ている。到着した時は既に閉まっていたがちょっと奥まったところにチケット売り場も見える。センターホールのホーム側の入り口があるが、係員がいるわけでもなく自由に出入りできる。今日も中国人観光客の多さが目に付くが、タイエリ溪谷鉄道



ダニーデン駅の全景



ダニーデン駅の構内



ダニーデン駅の正面入り口



ダニーデン駅の正面ホール
左の出入り口がホームへ続く



切符売り場

で出発する人が集まってきている。ここから出発して、プケランギで折り返して戻ってくる人が多い様だ。駅の脇に跨線橋がありそこから構内を眺めると貨物列車がたくさん並んでおり、客車は2、3編成しか見当たらない。町側を見ると目立つのは紫色の高い煙突？キャドバリーのチョコレート工場だ。



ダニーデン駅前広場（手前）と
キャドバリーチョコレート工場（白と紫の煙突？）

今日はその工場見学に行く予定。時計を見るとそろそろ工場見学も始まる時間なので、行ってみる。キャドバリーワールド入り口ホールは結構たくさんの人がいて、次の見学コースの時間を聞いて申し込むつもりで尋ねると、「すぐあちらに行ってください」と、そういえば少し前に 11:00 のコースの人はこちらに来てくださいと、ホール奥で待っていた人たちが移動していったのが見えていた。時間はすでに 10 分以上ずれていたようだが、そのツアーに入れてくれた様だ。

キャドバリーの歴史など簡単なビデオと注意事項の説明そしてビニールのダストキャップにチョコレートバーの一つ入ったビニール袋を渡されて、カメラを含めて荷物はすべてロッカーの中に、持ち込めるのはチョコレートの入ったビニール袋だけで見学コースに。

まず、チョコレートの原料の説明と作るチョコレートに対する原料の配合などの説明、そして配合された高温



キャドバリーのマスコットと
工場見学のガイド

のチョコレートが送られているパイプの走っている中をチョコチップを作っている工程に。40cm 位のベルトコンベアーに点々とホワイトチョコレートの滴が並んで出てきて、自然に冷やされて固まり、コンベアーの終点で箱の中に落ちていく。さらに進むと、いろいろな種類のチョコレートがサンプルとして置いてあり、OEM 生産したり、世界の特定国向けに生産している梱包など説明してくれ、最後にそこで梱包されているチョコレートをみんなに1個ずつ配布。

次は大きなチョコレートの卵を作る工程で、卵の型にチョコレートを少し流し込み、ぐるぐる回しながら冷却することで中空の卵型チョコレートボールが出来上がる。機械で自動梱包されたあと、検査しながら手作業で箱詰めしている。例の紫色のタワーがすぐ横にあり、なんとその中に入っていく。うす暗いタワーの中は外壁に沿ってらせん階段が降りており、中央には所々に円錐が漏斗状についている。案内係が制御盤を操作をすると、タワーの中央をドーンと溶けた生チョコレートが落ちていく、すごい量である。どうやら攪拌を兼ねて貯蓄タンクからラインに流しているらしい。すごい迫力と甘い香りがしてくる。最後に先ほどの溶けた生チョコを小さなカップに入れてみんなに配り、試食。あま～い。私にはちょっと甘すぎ。以上で見学終了。最初に1個のチョコレートバーが入っていたビニール袋には、バーが2本と小さなチップの袋が一つ、小さなチョコブロックが一つ増えていた。

ファースト教会、セントポール大聖堂、ノックス教会などキリスト教信者ではないが教会めぐり。オクタゴンを中心に、ホテルとは反対側が商店街になっていた、大きなモールやお店がいっぱいあり、やはり大都市だ。途中サンドイッチカフェで昼食、公衆トイレ経由で歩いていると、にわか雨。



ファースト教会



セントポール大聖堂

ホテルに戻り、飛行場までのガイドさんを待つ。ガイドさんが、ホテルはビジネス街に近くお店が少ないエリアですという事で、到着日と昨夜の夕食に歩いたところは静かな場所だったことを知った。

ダニーデン空港では、国内線のプロペラ機ではセキュリティチェックもないという事ですんなりチェックイン。ところが、ダニーデン - クライストチャーチ便の到着が遅れ、もともと乗り換え時間が少ないのに心配だ。ただ「同じ航空会社であり、遅れを確認したうえで通しの搭乗券が発行



このような急な坂道が多い町だ

されているので、たぶん大丈夫ですと」ガイドさんが言っている。「クライストチャーチからオークランドまではジェット機になるので、クライストチャーチ空港に着いたらすぐにセキュリティチェックを受けて表示されている搭乗ゲートに行ってください。最悪クライストチャーチなのでグローバルネットに電話すれば何とかかなりますから。」と。

ニュージーランドは年末で学期が終了するので、卒業生を送って来たのか学生達が「ハカ」を友人同士でやっている。マオリの風習だがラグビーでもニュージーランドのチームが試合の前にやっている。生活の中に生きている様だ。飛行機は事前の情報通り遅れて到着、25分遅れで搭乗開始、左右4列のプロペラ機で、すぐに出発。クライストチャーチ空港に着陸する前にパーサが来て、「オークランドへの乗り継ぎで時間がないので、着陸したらすぐに出口まで来てください」と言う。我々の他にもう一人女性客が乗り継ぎの様である。

そして機内放送で乗り継ぎの方がいるので、最初に降りてもらおうとアナウンスしていた。定位置に到着と同時に妻を急がせて、出入り口に。パーサや空港係員が誘導してくれる。セキュリティチェックゲートには数人並んでおり、やむなく順番待ちをして通過。搭乗ゲートでは係員が待ち構えており、「ウチヤマさんですか？すぐ乗ってください。」と、我々が最後で、座席に着くと同時に動き出した。なんとか乗れてほっとする。



オークランドに近付くと区画が小さくなる

オークランド空港でもガイドさんが待っていてくれて、早速ホテルに。おすすめのレストランの話や、以前にもNZに来た話などしているうちにホテル到着という事だが、予約されているスタンフォードプラザはもっと街中のはずで、どうやら最初のスケジュールのままで、スケジュール変更の連絡がなかった様で、ハイアットホテルに来てしまった様だ。日程表を確認してもらい、スタンフォードプラザに行き先変更、ガイドさんがチェックインと部屋の確認までしますとの事。部屋に行くと、角部屋でかなり良い部屋らしいが、ダブルベットがセットしてあり、タオルなどが1セットしかない。早速ガイドさんがフロントに部屋の変更を掛け合いに行ってくれた。部屋は満室で変更ができないという事でベットをツインにセットし直しタオルなどを2組準備してくれた。浴室も広く、トイレとは別室になっていて、バスタブの他にシャワールームまでついている。さっそく夕食に街に出る。到着が遅かったのでまだ明るいがすでに8時半を回っている。ホテルに戻ったら今日も9時半を回っていた。

(12日目)

もう最後のツアーだ 12/15 晴れ



いよいよ最後のツアー。今日もプライベートガイドになってしまう。

ホテルから約1時間ほど走って郊外へ、公園の駐車場の様な所に停車、ここからスタートです。カウリの森は保護のため外来雑菌を持ち込ませないために、靴を消毒してから入る様

になっているという事で、タンクからつながっているホースノズルで消毒。森の中に入る。
鳥の声が良く聞こえる。ガイドさんがシダや鳥の話をしてながら進み、土ボタルはロトルアや



ブラックファン



スケールファン



Pukatea



Totara



Chaffinch



ニュージーランドビジョン (鳩)

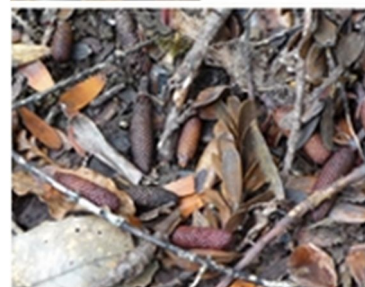
テアナウの洞窟で良く見えて有名だが、この辺にも湿っぽい日陰や草陰に生息しているそうだ。土手の影などガイドさんが一生懸命探してみるが、なかなか見つからない。ブラックファン、シルバーファン、スケールファンなどいろいろ教えてくれる。さすがにこの辺は高山植物というわけにはいかにないが、多くのシダ類など説明してもらおうとよく解る。鳥もすごく身近にいて、ニュージーランド固有の大きな鳩や、ファンテイル、トゥイなどを見ながらいよいよカウリの木と対面。

森の入り口付近ではカウリの木もまだ細く、といっても 300 年近くたっているらしいが、森の奥に進むにしたがって見られるカウリの木は次第に太さを増し、1000 年くらいの太い木にも出会える。

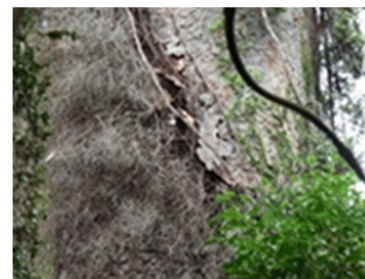
カウリの木は天にまっすぐ伸び、他の木は幹の周りにコケや寄生植物で覆われているがカウリは樹皮が見えている。これは、カウリの木が脱皮するように外皮を自分で剥がし、寄生植物と一緒に落としてしまうための様だ。ガイドさんに言われてみると、確かに蔓性の植物が付いた幹の外皮がまさにはげ落ちそうになっている。2 年または 3 年かけて外皮を自ら剥がし落として本体を守っている様



Kauri (カウリ)



Kauri の尾花の後



樹皮を剥いて寄生植物ごと落とす

だ。植物のたくましさや長い年月を重ねて適応した変化に生物の不思議な力を感じる。さらに進むと、この森で一番太いカウリを見ることができる。直径 1.5m 以上ありそうで樹齢は 1500 年位らしい。どこまで巨大になるのか？

ガイドさんがまた道端の草陰を見つめていて、「つちボタル居ました！」と、急いで指さす先を見たのだが、何も見えない。「草陰に 1 本細い糸が渡って、その横糸に等間隔で縦糸が数本下がっているのがつちボタルの作る獲物捕獲用の網です。蜘蛛の糸より細いかもしれません。その横糸の付け根の枯葉の裏などに 5mm 位の虫がいるはずで、それがつちボタルです。頭部が発光するのでホタルの名がついているのですが、小さいと光も弱く、昼間ではみえません。ロトルアやテアナウでは洞窟に生息していて、虫も大きいので光も強く沢山いますし、洞窟で暗いので有名になっています。」と説明してくれ、こちらは必死で糸を探す。どうも光の関係で見えないのか、覗き込む方向を変えてみたら、横糸がみえた！　すごく細い糸で、確かに等間隔で縦糸が見える。それにしても細い糸だ。つちボタル本体を探すためには、枯葉や脇の草を動かさなければいけな



Auckland City Walk

ワイタケレレンジスリージョナルパークランド

い、でもそれをしたらせっかくの糸が切れてしまう。本体を見ることは止めてせっかく作ってある網を残しておこう。写真の撮影にも挑戦してみたが、糸が細くて全く写すことができなかった。

そのあとすぐ森が切れ、カウリの森ツアーは終了となる。だいぶ予定時間を過ぎてしまい、車が心配して森の出口まで探しに来てくれた。ガイドさんが我々の午後のスケジュールを心配してくれたが、特に予定を組んで有る訳ではなくオークランドの街中をぶらぶらする予定なので、時間の制約がないことを伝え、「もう少し時間が良ければ、タスマン海側の海岸にカツオ鳥のコロニーが有るので、ご案内します。」と車は走り出す。

30分ほど走ると海の見える駐車場に着いた。「ここから少し歩くとコロニーが見られます、以前は沖の少し大きな島にコロニーがあったのですが、手前の小さな島にもコロニーができ、そして海岸にもできるようになりました。毎年少しずつ大きくなっている様です。」展望台のすぐ下にもたくさんのカツオ鳥が30～50cm間隔位でびっしり座っており、その上空を沢



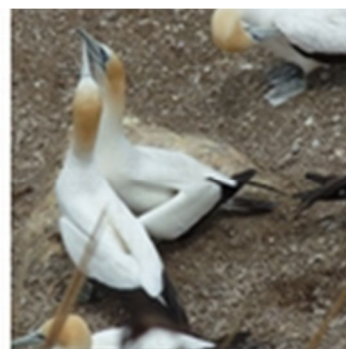
クリスマスシーズンに咲く
ポフツカワ



ムリワイ沖のオアイア島が最初のコロニー、



カツオドリ 2番目のコロニー
モトゥトラ島



カップル成立か？
Australasian Gannet (カツオ鳥)

山のカツオ鳥が飛び、時には向かい風をうまく利用して羽ばたきもしないでホバリングしている。また2羽のカツオ鳥がくちばしを交差し合っている、カップル誕生の様だ。カツオ鳥の頭部は薄い黄色で首に向かって白くグラデーションがとても綺麗だ。いつまで見ていても飽きない光景だった。少し先の海岸にも一回り小さく、白と黒の海鳥（アジサシ）が小さなコロニーを作っていた。やっと見切りをつけて帰路に着く。



相棒探し
海風に乗ってこの位置でホバリング



White Fronted Tern (アジサシの一種)

ツアーの予定時間をはるかに超えてホテルに帰着。着替えて昼食とオークランド市内見学に出発。教会広場に行く、教会の真後ろにスカイタワーがそそり立っている、まるで教会の塔がそのままスカイタワーになっているように見える。教会広場の石段に座ってテイクアウ

トの寿司（巻き寿司）を食べている人がいる、そういえば寿司屋がすごく多い。クイーンズ通りをウィンドショッピングしながら歩く。さすがに都会だ、人も車も多い。



オークランドのタウンホール



オークランドのアートギャラリー
来年まで補修中

アオテアスクエア横のタウンホール、アートギャラリーを訪ねる。アートギャラリーは修復工事中らしくフェンスが巡っている。入り口は何処だろうと思いながら覗いていると、工事をしている職人さんがこちらを見ながら後ろを指さしている。ふと後ろを見ると、アートギャラリーの看板が見える。修復工事中の仮ギャラリーの形で職人さんが我々に気が付いて教えてくれたようだ。寄り道しながらフェリー乗り場の方へ、ガイドさんに教えていただいたヨットハーバの横のビルで夕食のレストランを探す。いよいよ最後の夜となる、明朝は朝が早い、荷物をまとめる。おやすみなさい。

（13日目）

天気にも恵まれ、思い出が増えた 12/16（木）曇り

朝ガイドさんが迎えに来てくれた。空港まで、NZ で初めて交通渋滞にはまりながら空港へ、定時に出発。長い長い旅が終わった。

リタイア記念のニュージーランドの長い旅。

素晴らしい自然と、安心して旅行のできる NZ。列車に乗り、森の中を自然に包まれて、小鳥に囲まれ、高山植物の花を愛でて、そして地元の人や旅行者が利用する路線バス、乗り継ぎのために降りた町？は4、5軒のお店だけ、町に3台しかないと言われるタクシー、小指の爪ほどのセミ、そして氷河の崩落は大自然すごい力を目の当たりにし、馬に乗って牧場内の景色を楽しみ、広大な牧草地帯の中の小さな無人駅、子育て中のペンギンや翼を広げると3mにもなるアホウドリ、歴史を感じられる建物、太い真っ直ぐなカウリ。今回はほんとに貴重な体験と自然の素晴らしさを改めて実感した旅であった。

今回もグローバルネットの田代さん、そしてガイドをしてくれた沢山の日本人とニュージーランドの人たち、ワナカの佐々木さんご一家に感謝。

人生に新たなページを加えることができた。

パウア貝の「かけら」を加工

